

ちょっと
ブレイク



フロンティア リーダー

Vol.428

変わりつつあるメカニックの在り方

CASEの加速で高まる自動車整備士の重要性

新技術への対応

自動車業界がCASE（C=コネクテッド、A=自動運転、S=シェアリング&サービス、E=電動化）の進展によって大きく変化する昨今、自動車整備士つまり“メカニック”の在り方が変わりつつある。高度化する技術に対応するための知識や技術習得などに加えて、メカニックだからこそ可能な説得力のある説明などユーザーに向けた対応も重要となってくる。また、整備収益拡大に向けた取り組みや整備提案など、仕事の幅は広がりつつあり、自動車の安全・安心を支えるメカニックの役割は一層高まっているといえよう。

ここ数年で、自動車メーカー各社が電動車のラインアップを充実させており、今後はこれまでと異なるトラブルシュートが増えることが予想されている。

整備士の不足が課題

しかし、自動車整備士養成校への入学者は、約10年前から比較して半減しているといわれている。また、新型コロナウイルス蔓延の影響で留学生の入国がままならず、新入生の確保が厳しいという声もある。

こうした状況の中で、行政による自動車整備士の魅力と重要性を発信する取り組みが全国で広まっている。現役の自動車整備士たちと運輸局関係者たちによる“車座対話”や、運輸支局長らによる“高校訪問”などだ。

自動車整備士の仕事について、広く一般の人々に興味・関心を持ってもらうとともに、自動車整備における課題などの意見交換を行うこ



メカニックはドライバーの安全を支えるエッセンシャルワーカーだ

とで今後の行政の取り組みに反映する狙いだ。

そうした中、“作業場のエアコンや休憩室などの設備”や“従業員の休日や有休の取得率”などの、待遇や職場環境の過酷さを指摘されるケースも多いという。

一部のディーラーではこうした状況を踏まえて、地域内におけるメカニックの待遇を調査、諸手当の見直しなどに着手するなどの待遇改善に乗り出した例もあるという。営業はもちろん大事だが、メカニックがいなければディーラーの仕事は成り立たないだろう。あるディーラーで、現在は営業職の元メカニックは「メカニックの仕事にプライドがあって、本当はずっとメカニックとして働きたかった」という。

自動車の技術が高度化に伴い、その自動車を点検・整備する優秀なメカニックが必要となってくる。この先も、技術の習得や情報収集に積極的なメカニックが安心して働き続けられるように、自動車業界全体で問題改善に本気で取り組む必要がある。